

## 平成 20 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	研究	題名	リンドウの県オリジナル品種におけるモザイク病の発生実態		
[要約] リンドウの県オリジナル品種を対象に、キュウリモザイクウイルス（CMV）によるモザイク病の発生実態を調査したところ、晩生の「ジョバンニ」に比べて、早生および中生の「マシリィ」と「イーハトーヴォ」では発生が極めて少ない。					
キーワード	CMV	発生実態	品種間差異	環境部・病理昆虫研究室	

### 1 背景とねらい

リンドウにおいて、キュウリモザイクウイルス（CMV）によるモザイク病は難防除病害であり、これまで有効な防除法がなかった。近年、日本デルモンテと八幡平市は、弱毒ウイルスを用いたリンドウモザイク病の防止技術を開発し、同市では既に普及している。この技術は、弱毒化した CMV 株を前もって感染させたリンドウ苗を定植することにより、圃場における CMV 強毒株の感染を防止するものである。本研究では、県オリジナル品種において本技術を適用すべき品種を明らかにするため、県オリジナル品種におけるモザイク病の発生実態を明らかにする。

### 2 成果の内容

- (1) 県オリジナル品種におけるモザイク病の発生は、「ジョバンニ」が最も多く、次いで「いわて」が多い。早生および中生の「マシリィ」と「イーハトーヴォ」は、「ジョバンニ」に比べて発生が少ない。（図 1，図 2）

### 3 成果活用上の留意事項

- (1) 本調査は、ジョバンニが栽培されている県内 40 圃場を対象として実施した。  
 (2) 弱毒ウイルスによる防除法を適用すべき品種は、「ジョバンニ」であると考えられる。現在、弱毒 CMV を接種した「ジョバンニ」を現地圃場に定植し、その防除効果を検証している。  
 (3) 発生の多少が品種により異なる理由は、感染時期や抵抗性の違いが考えられるが、詳細については明らかでない。なお、9 月咲きのエゾリンドウは全般に、モザイク病も発生が多い傾向が認められる。（表 1）

### 4 成果の活用方法等

- (1) 期待する活用成果  
 弱毒ウイルスによる防除法を導入する品種を選択するための参考となる。

### 5 当該事項にかかる試験研究課題

(H18-12) 弱毒ウイルスを利用したリンドウのウイルス病防除法の確立

### 6 担当者氏名 猫塚修一

### 7 参考資料・文献

- (1) 鈴木ら（1994）リンドウにおけるキュウリモザイクウイルス（CMV）の感染経路の解明  
 1) アブラムシからの CMV の検出 北日本病虫研報 45:84-87

## 8 試験成績の概要

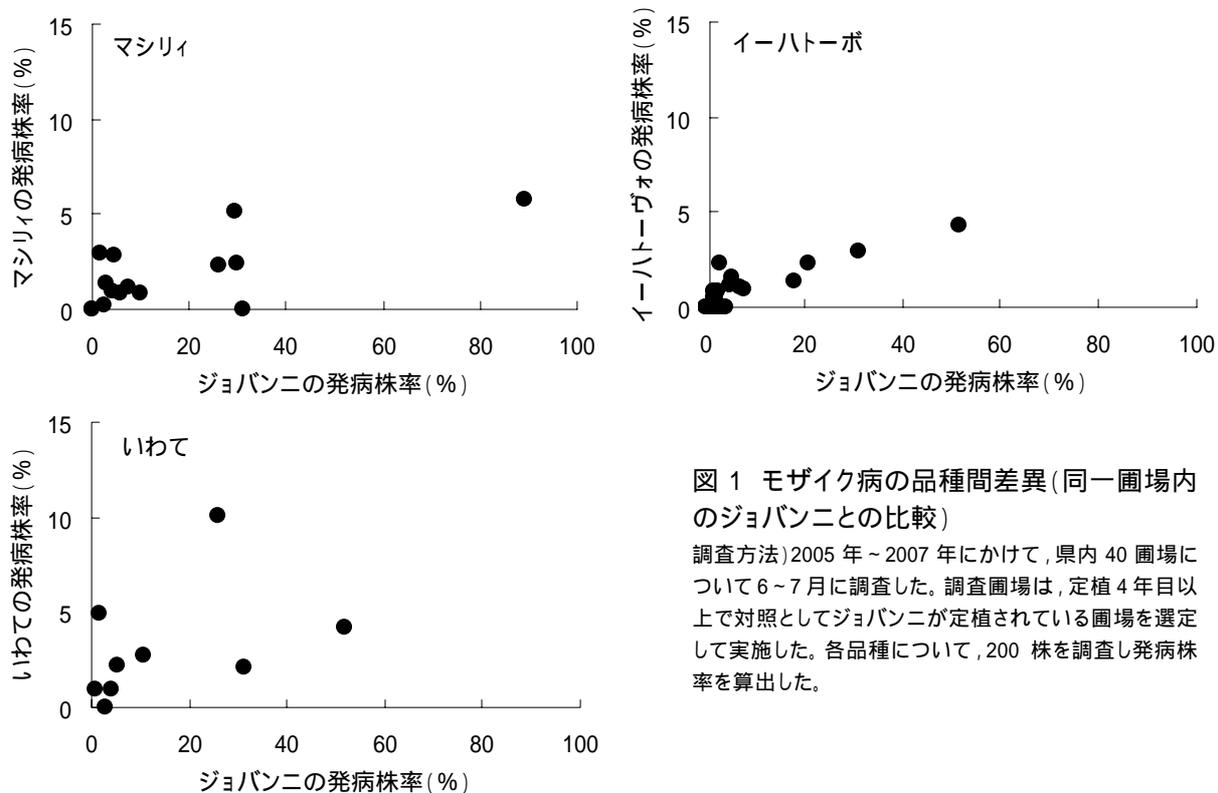


図1 モザイク病の品種間差異(同一圃場内のジョバンニとの比較)

調査方法)2005年～2007年にかけて、県内40圃場について6～7月に調査した。調査圃場は、定植4年目以上で対照としてジョバンニが定植されている圃場を選定して実施した。各品種について、200株を調査し発病株率を算出した。

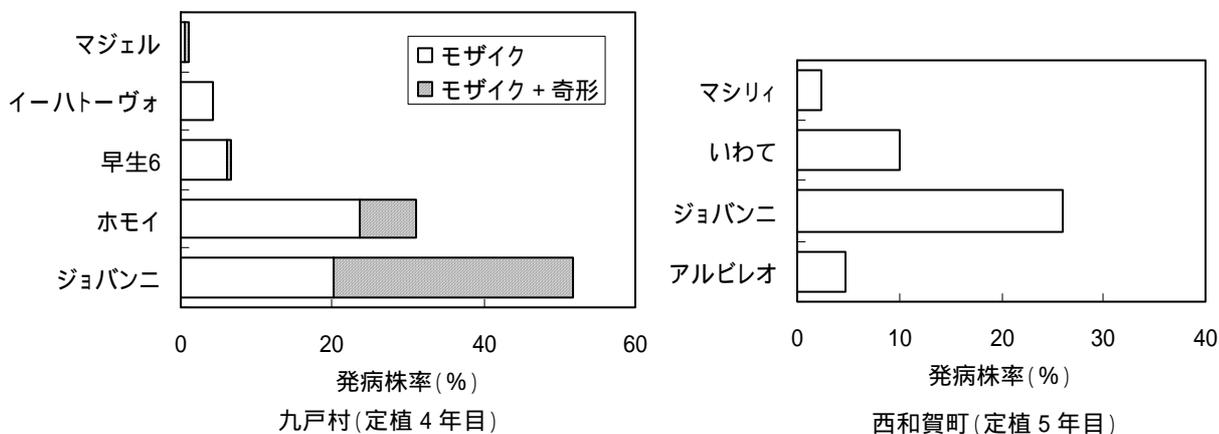


図2 圃場におけるモザイク病の発生事例

表1 各種エゾリンドウの開花時期とモザイク病の発生状況

品種・系統	開花期	発病株率	罹病株の検定数	検出されたウイルス種の内訳		
				CMV+ BBWV	CMV	BBWV
マシリイ	7月下旬	11.8%	12	9	3	0
イーハトーヴォ	8月上旬	10.1	14	9	1	4
ジョバンニ	9月上旬	38.8	11	11	0	0
磐梯系	9月下旬	19.3	28	27	0	1

調査地・株齢：所内圃場（6年株）